

書
評

ウォーモルド 内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術

原著：Peter-John Wormald

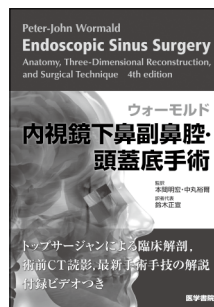
監訳：本間明宏，中丸裕爾

訳者代表：鈴木正宣

A4・頁 328 2020 年 9 月 定価：22,000 円（本体 20,000 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-04200-0] 医学書院 刊

<評者> 藤枝重治（福井大教授・耳鼻咽喉科）



内視鏡下鼻副鼻腔手術のバイブルである P.J. Wormald の原著『Endoscopic Sinus Surgery』の初の邦訳が本書である。P. J. Wormald は世界でも屈指の rhinologist として名高く、彼が心血注いで書き続けている原著は第 4 版まで刊行され、改訂されるごとに手術アプローチやコンセプト，周術期管理に至るまで進化を続けている。もちろん，本書は最新の第 4 版の邦訳である。内視鏡やナビゲーションなどデバイスの進歩とともに内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術における知識や技術のアップデートが必須であるが，原著を十分に理解するには，多忙な臨床医にとって『言語』という壁が敷居を高くしていた。このたび，P.J. Wormald の spirit（魂）を受け継ぐ北大の先生たちの手によって待望の訳書が発刊されると聞き，彼の金言をより身近なものとして感じられることに胸が躍った。

あえて紹介するまでもないかもしれないが，P.J. Wormald はオーストラリアを中心に world wide に活躍する top surgeon である。また彼は手術のみならず研究者の顔も持ち，国際誌に 330 以上の論文を掲載している類まれなる rhinologist でもある。

本書は FESS（内視鏡下鼻副鼻腔手術）や鼻中隔矯正術など広く市中病院で行われている手術から，前頭蓋底手術など限られた医療施設でしか経験できない手術まで網羅されている。また下垂体腫瘍，前頭蓋手術など経鼻内視鏡下手術を行う脳神経外科医にとっても

必要な解剖や手術手技が細部に至るまで書かれている。初学者から鼻科専門医まで非常に学ぶことの多い至高の一冊と言える。

他の手術書と異なる本書の特徴として以下の 3 点が挙げられる。つまり，（1）前頭窩に複雑に存在する蜂巣をブロックで 3 次元的に表現することで，排泄路同定を容易にする building block concept，（2）解剖学者との協力の下作成された鮮明な手術視野のカダバー画像，そして（3）個々の医師による経験則ではなく客観的データ（エビデンス）に基づき手術法を評価している点，である。これらの特徴により，読者は解剖についての理解が深まり，合併症を回避しながら世界標準の手術を提供できるようになる。

本書は初学者にとっては歩むべき道を照らす道標として，鼻科専門医にとってはより高みをめざす心強い相棒として，後進を育てる指導医にとっては客観的データを基にした優れた指導書として，その力をいかに発揮するだろう。そして，日常診療において『即戦力』としてわれわれに恩恵をもたらしてくれることを確信している。

昨今のコロナ禍において，実際に海外へ渡り P.J. Wormald 自身から教える機会は今まで以上に稀有なものとなってしまったが，幸いなことに本書を通じて P.J. Wormald の真髄を身近なものとして迎えられることに感謝したい。